日本言語学会第 169 回大会
プログラム

会　長　　定延　利之
大会運営委員長　　小町　将之
大会実行委員長　　奥　聡

期　日：2024 年 11 月 9 日（土）・10 日（日）

会　場：北海道大学札幌キャンパス 高等教育推進機構・医学部百年記念館（北海道札幌市）

※参加受付はオンライン（Peatix）もしくは現地にて行います。ただし，円滑な運営のため Peatix にて，事前受付・支払いへご協力願います。詳細は 7 ページをご覧ください。

※公開シンポジウムは大会後に録画を学会公式 YouTube チャンネルにて一般公開します。

※参加登録をされた方にのみ，口頭発表およびワークショップの録画およびポスターファイルを大会後の一定期間，公開します。

―― 第１日（11 月 9 日）――

10:00–11:40	評議員会	高等教育推進機構 1 階 N1
12:00–	受付	高等教育推進機構 1 階
12:40–13:00	会長挨拶，日本言語学会学会賞授賞式	高等教育推進機構 1 階　大講堂（Sky Hall）
13:00–16:00	公開シンポジウム「役割語研究の現在地―役割語から見た言語と文化」 ＜基調講演＞ 金水敏（放送大学，大阪大学名誉教授）「日本語の役割語はなぜこんなに豊かなのか―文化史的観点から考える」 ＜登壇者＞ 山木戸浩子（藤女子大学）「英語における役割語―社会的マイノリティと結びつく言葉づかいをケーススタディとして」 鄭惠先（北海道大学）「韓国語における役割語―話者の「社会的役割」に注目して」 河崎みゆき（國學院大學）「中国語における役割語―役割語と中国文化運動」 細川裕史（阪南大学）「ドイツ語における役割語―「言語意識史」の観点から」	
16:15–17:45	ポスター発表（詳細は 2 頁にあります。）	医学部百年記念館
17:45–18:30	参加者交流会（会費無料。奮ってご参加ください。）	

―― 第２日（11 月 10 日）――

9:30–11:30	ワークショップ（詳細は 3 頁にあります。）	高等教育推進機構 A～F 会場
11:45–13:15	ポスター発表（詳細は 4 頁にあります。）	高等教育推進機構 2 階
13:30–16:30	口頭発表（詳細は 5 頁にあります。）	高等教育推進機構 A～E 会場

■ポスター発表（11 月 9 日(土)　16:15–17:45）於・医学部百年記念館

P 会場 医学部 百年記 念館	[P-6] 塩原 佳世乃 等位接続詞の音声的具現化の類型論的説明に向けて	[P-28] Zian HUANG A pragmatic analysis of the discourse marker “geme” in the Shanghai Dialect
	[P-7] 市原 沙弥，井原 駿 終助詞による応答解釈のマニピュレーション	[P-29] Laurene BARBIER The expression of deictic riverine motion events in Upper Negidal
	[P-8] 蒲地 賢一郎 モダリティ文：命題表現とモダリティ表現との関係	[P-30] 阪口 慧 スポーツ実況における「痛んでいる」―語彙選択の動機づけと使用の制約に関して―
	[P-9] 嘉藤 優太 日本語関係節の派生と島の制約	[P-35] 汪 洋 日本語と中国語における一次元的な助数詞／量詞の認知意味論的対照研究
	[P-10] 泉 大輔，細谷 諒太 日本語の「文の包摂」と英語の “phrasal compounding” の共通点と相違点	[P-36] 松岡 幹就，梅村 航平，金澤 拓海，嵯峨井 萌 日英語の前・後置詞の叙述性と統語的分布の違いについて
	[P-16] 佐々木 冠 日本語人魚構文の統語的多様性	[P-37] 譚 坤明 中国語における文末助詞「ba（吧）」の韻律的特徴
	[P-17] 今西 一太 アミ語談話における態の頻度分析の問題点	[P-38] 小林 剛士 とりたて表現の語順類型論
	[P-18] 圍迫 雅彦，木戸 康人，一瀬 陽子 日本語を母語とする英語学習者における枝分かれ構造の種類による複合名詞の容認度の違いについて	[P-39] 王 鈺 状態変化と位置変化を統合した分離事象の語彙カテゴリー化に関する実験的研究―類型論的視点から―
	[P-19] 中谷 健太郎 Presupposition accommodation の観点から見たテオクとテシマウの非対称性	[P-40] 村山 友里枝 北海道方言「ラサル」の非意図用法における生産性の制約について
	[P-20] 張 栩 「VP+補助動詞」型複合動詞の意味と語形成―「VP+きる」を手掛かりに―	[P-41] Kunihiko KUROKI，Seunghun J. LEE Phonological phrasing in Miyakonojo and Miyazaki-shi Japanese
	[P-26] 野元 裕樹 分析的受動文の類型に関する試論：東南アジアの言語を中心に	[P-43] Taika NAGANO Deriving Japanese causative morphemes from a single phonological form
	[P-27] 山部 順治 オリヤ語における数と助数詞の相互作用	[P-44] 韓 皎池 母音延伸のコミュニケーション的特徴の把握を目指して：話者の属性および語類と母音の延伸率に関する統計的分析

■ワークショップ（11 月 12 日(日)　9:30–11:30）於・高等教育推進機構

A 会場 1 階 大講堂 （Sky Hall）	[W-1] 演算メカニズムの経済性の由来と帰結 企画者・司会：宗像 孝	
	[W-1-1] 生成文法における経済性指針	豊島 孝之
	[W-1-2] Merge の経済性条件について	後藤 亘 石井 透
	[W-1-3] コピー形成における演算処理: コントロール構文の派生を基に	宗像 孝
B 会場 1 階 N1 教室	[W-2] 全体・部分・動詞の三角関係標示のストラテジー 企画者・司会：小林 剛士　コメンテーター：風間 伸次郎	
	[W-2-1] 三角関係標示の広域類型論	小林 剛士
	[W-2-2] アラビア諸語における三角関係標示の変異と歴史	宮川 寛人
	[W-2-3] 南アジアの言語における三角関係標示の超系統的傾向	小林 颯
	[W-2-4] ヨーロッパ諸言語における三角関係標示とその要因	石橋 雄大
C 会場 1 階 N2 教室	[W-3] 阻止はどこで，どのように起こっているのか？ 企画者・司会：乙黒 亮	
	[W-3-1] 分散形態論における阻止	田川 拓海
	[W-3-2] 自律モジュール文法における阻止	柚原 一郎
	[W-3-3] 一般化パラダイム関数形態論における阻止	乙黒 亮
D 会場 2 階 E214 教室	[W-4] 日本語から見た世界の言語の主題と焦点 企画者・司会：野田 尚史	
	[W-4-1] シンハラ語の主題と焦点	岸本 秀樹
	[W-4-2] ネワール語の主題と焦点	桐生 和幸
	[W-4-3] マテンゴ語の主題と焦点	米田 信子
	[W-4-4] インドネシア語の主題と焦点	原真由子
E 会場 2 階 E208 教室	[W-5] マレー語世界の社会言語学—さまざまな変種の特質と使用実態 企画者・司会：内海 敦子　コメンテーター：塩原 朝子	
	[W-5-1] 趣旨説明およびマレー諸語とその社会言語学的状況の概観	内海 敦子
	[W-5-2] マレー語世界の全容と歴史：カリマンタン変種を手がかりに	稲垣 和也
	[W-5-3] 活力のある民族語とマレー語の使い分け：ジャワ語との二言語併用地域のコードミキシングとコードスイッチング	スリ・ブディ・レスタリ
	[W-5-4] 複数のアイデンティティを映す戦略としてのコード・ミキシング：マカッサル・インドネシア語の事例から	塩原 朝子
	[W-5-5] 多民族地域におけるマレー語の浸透力：北スラウェシ州の事例から	内海 敦子
	[W-5-6] トランスミグラシ（近年の国内移民）と共通語としてのマレー語の姿	三宅 良美
F 会場 2 階 E201 教室	[W-6] 論争する言語学の過去・現在・未来：議論を深め、実りあるものとするために 企画者：山泉実　司会：田中 太一　コメンテーター：窪田 悠介	
	[W-6-1] 誤解の効用とその限界：黒田久野論争をめぐって	田中 太一
	[W-6-2] 西垣内西山論争における齟齬：非飽和名詞の定義と“翻訳”を中心に	山泉 実
	[W-6-3] 互いの研究対象を見極めることの重要性：『日本語文法』における終助詞ヤをめぐる議論の検討	西畑 宏紀

■ポスター発表（11 月 10 日(日)　11:45–13:15）於・高等教育推進機構

PA 会場 2 階 E207 教室	[P-1] Tomoya TANABE, Ryoichiro KOBAYASHI, Yosuke SATO The Obligatory wide scope phenomena in Japanese: A myth?	[P-5] 井川 詩織 聞き手を主語としない日本語命令文についての記述・理論的研究
	[P-2] 杜 乃岩，平田 歩，张 士毅 遊戯王のネーミングにおける音象徴のパターン―モンスターの名前とレベルの相関関係について―	[P-11] 渡部 直也 ウクライナ語における「軟らかい」唇子音
	[P-3] 杉崎 鉱司，佐藤 未菜，高嶋 結帆 日本語における「～たち」の獲得と構造依存性	[P-12] 長谷部 郁子 肯定極性項目としての日本語のイディオム表現
	[P-4] 森竹 希望，前田 雅子 分裂文における属格主語の生起に関して	
PB 会場 2 階 E215 **教室**	[P-13] 酒井 啓史 英語の NP V V-*ing* における動名詞補文の意味上の主語はどのようにして決定されるのか―心理動詞を中心に―	[P-22] 吉本 啓，中村 裕昭 とりたて詞の指示対象分割機能について
	[P-14] 武藤 佑輔 「X を Y に」構文における格付与とコントロール	[P-23] 時崎 久夫，稲葉 治朗，桑名 保智 括弧付けパラドックスの構造と意味：プラン B で行こう
	[P-15] 濱岡 佑帆 日本語母語話者および中国語母語話者における日本語発話時の鼻音化率	[P-24] 幸 一尋 英語における形容詞＋動詞-*en* 型複合形容詞の形成条件―結果構文との関連から―
	[P-21] 風間 伸次郎 「孤立型言語」の内的関連特徴―Grambank を活用して―	[P-42] 首藤 佐智子，小西 隆之 誠実性の伝達における音声エンコーディングと聞き手の知覚の間に生じる不均衡
PC 会場 2 階 E216 **教室**	[P-25] 山田 彬尭 日本語丁寧語構文の交替における L1/2 学習者の相違点について	[P-33] 日高 俊夫 属性構文とされる「～をしている」について
	[P-31] 山口 航輝，山田 絵美，太田 真理 日本語のコントロール文における空主語の処理: 脳磁図による検討	[P-34] 許 文傑 広東語における副詞的後置成分のアスペクトへの文法化について―北京語・日本語との対照的アプローチ―
	[P-32] 臼井 悠香 日本語の(非)定形節における長距離 A 移動に関する考察	

■口頭発表（11 月 10 日(日) 13:30–16:30）於・高等教育推進機構

	A 会場 1 階大講堂（Sky Hall） 司会：[1-3] 北田 伸一，[4-5] 田川 拓海	**B 会場** 1 階 N1 教室 司会：[2-3,5] 矢野 雅貴，[1,4] 李 林静
13:30−14:00	[A-1] 竹内 士瑛伊 疑問文断片からみる極性疑問文の選言構造について	[B-2] Edson T. MIYAMOTO, Juan Pablo RODRIGUEZ GOMEZ, Teeranoot SIRIWITTAYAKORN, Chia-lin LEE Sensitivity to number agreement in English as a foreign language by native speakers of Chinese, Japanese and Thai
14:05−14:35	[A-2] 齋藤 諒弥 日本語における場所格交替の統語構造と主題階層	[B-3] 有賀 照道 音声単語認知における音素とアクセントの不一致の解釈：反復プライミングによる検討
14:40−15:10	[A-3] 木村 一馬，橋本 龍弥 コピュラ命題補部からの数量詞上昇―「節境界性」の再考―	[B-5] 野田 晏伎，山田 絵美，太田 真理 四字漢語の階層構造の構築に関わる脳活動：定常状態誘発磁場による検討
15:10−15:25	（休 憩）	（休 憩）
15:25−15:55	[A-4] Ting-Chi WEI Ellipsis mismatches in Mandarin Chinese: A base-generated approach	[B-1] Shaohan WU An electroglottographic examination on the voicing contrast of Japanese stops
16:00-16:30	[A-5] Yosuke SATO Non-initial dependent grafted speech in Japanese and modal complement ellipsis	[B-4] 宮﨑 順大 「が」・「の」主語嗜好性：穴埋め式テストによる実験

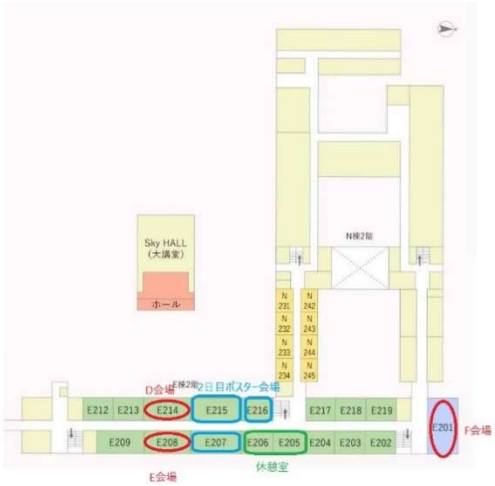
	C 会場 1 階 N2 教室 司会：[1-3] 久保薗 愛，[4-5] 小野 智香子	**D 会場** 2 階 E214 教室 司会：[1-2] 甲斐 ますみ，[3-4] 淺尾 仁彦
13:30−14:00	[C-1] 尹 熙洙 琉球祖語の狭母音及び中段母音の 15 世紀沖縄語における反映について	[D-1] 古川 智康 トク・ピシンにおける「V-*im* 目的語」構文と「V *long* 目的語」構文の交替の要因
14:05−14:35	[C-2] 髙城 隆一 鹿児島県大隅半島内之浦方言における与格と方向格	[D-2] 水野 庄吾 通言語的視点から見た相対的場所表現の文法化
14:40−15:10	[C-3] 白田 理人 北琉球奄美喜界島方言における指示詞由来形式を含む一人称除外形の通時的発達について―双数形を中心に―	
15:10−15:25	（休 憩）	（休 憩）
15:25−15:55	[C-4] 松山 芳瑛 チェコ語における外部的所有構造―所有の与格／対格に着目して―	[D-3] 陳 奕廷，葉 秉杰 NV 型複合名詞の述語化に対する計量的分析：フレーム意味論からみた機能的動機づけ
16:00-16:30	[C-5] 谷川 みずき ノルウェー語の「逆パンケーキ構文」の機能と分布	[D-4] 野村 優衣，井原 駿 「*さえは」と「までは」:意外性を表す焦点助詞と対照主題の共起性

	E 会場 2 階 E208 教室 司会：平山 真奈美
13:30−14:00	[E-1] 中川 裕 クリック流入音における噪音性の音源：グイ語の事例によるハグマンの仮説の検証
14:05−14:35	[E-2] 吉田 遊野 オノマトペ表現と類像的ジェスチャーの分析を通した事態把握の日中対照研究
14:40−15:10	[E-3] Shinobu MIZUGUCHI, Koichi TATEISHI How are prosodic boundaries perceived in Japanese?

◆会場配置図（高等教育推進機構）

1F

2F



◆路線図・キャンパス周辺図

※一日目会場の「医学部百年記念館」は、キャンパス南の「百年記念会館」とは異なるのでご注意ください。

◆会場までの交通アクセス

以下のページをご参照ください。

北海道大学札幌キャンパス地図

https://www.hokudai.ac.jp/introduction/campus/campusmap/

※JR 札幌駅北口から会場までは、徒歩では 20 分以上かかります。

お知らせ

◆ 参加登録

大会参加費はオンライン（Peatix: https://lsj169.peatix.com※要アカウント作成），または大会当日受付にてお支払いください。Peatix での登録者はオンラインでの後日配信（期間限定）もご覧いただけます。

	一般	学生
会員	2,000 円	1,000 円
非会員	3,000 円	2,000 円

※事前登録は，10 月 15 日(火)から行います。

◆ 発表要旨集

発表要旨集は大会の 1 か月前までを目安に学会ホームページから電子版（PDF ファイル）がダウンロードできるようになります。紙媒体での頒布はありませんので，事前にダウンロードをお済ませください。
※従来の予稿集は第 168 回大会をもって廃止されました。

◆ 出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状がご入用の方は，返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上，11 月 1 日(金)（必着）までに学会事務支局までお申し込みください。

◆ 大会期間の昼食

10 日（日）は大学内の食堂が営業しておりません。各自昼食をご準備下さい。

◆ 参加者交流会

9 日（土）のポスター発表終了後に同会場で参加者交流会を実施します。ソフトドリンクと簡単な茶菓子を提供します。無料でご参加いただけますのでふるってご参加下さい。

◆ 保育室の設置

希望される方は，大会ホームページ（https://ls-japan.org/taikai/program/pg169/）をご確認のうえ，保育室担当宛(lsj.childcare@gmail.com)に御連絡ください。

◆ 情報保障について

希望される方は，大会ホームページ（https://ls-japan.org/taikai/program/pg169/）をご確認のうえ，学会事務支局（lsj@nacos.com）にお申し出ください。

◆ 書籍展示

書籍展示は，1 階ロビーで行う予定です。

◆ 資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会，研究会，講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

事務局からのお知らせ

日本言語学会では，2019 年度より，言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の 1 つに，2018 年 8 月に開催された「夏期講座 2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として，このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと，倫理綱領制定のための部会で原案を作成し，常任委員会，そして評議員会で議論の上，制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず，倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で，大会に参加いただきますよう，よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については，日本言語学会ウェブサイトで確認してください。

http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf

次回大会予告（2025 年春季大会：第 170 回大会）

場　所：明海大学
日　程：2025 年 6 月 29 日 (土)・30 日 (日)
　　公開シンポジウム，口頭発表，ポスター発表，ワークショップ
研究発表募集：**学会ホームページから発表申し込みができます。**
　　・発表応募締め切り　2025 年 3 月 20 日（木）（必着）
　　・採否通知　2025 年 4 月中旬

問い合わせ先
日本言語学会事務支局　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入
Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com